

基本計画（素案）「Ⅳ. 基本計画推進のために」に係る審議会専門部会における主な御意見・議論等  
（平成30年2月28日時点）

専門部会の御意見を踏まえて修正した資料

「計画本文」…（修正前）1/30 諮問案 ⇒ （修正後）【資料37】

「検討資料」…（修正前）1/30 「財政運営の基本方針」の検討資料（案）【資料33】 ⇒ （修正後）【資料38】

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	反映箇所	部会
「4. 財政運営の基本方針」					
表現・示し方等	1	「検討資料」について、経常収支比率や公債費比率など、大阪府内の同規模団体との比較が行われているが、全国平均や類似団体の平均と比較するべきではないか。	「大阪府内の市平均」を「全国と同規模団体の平均」に変更。	【資料38】 図表Ⅱ-2,5,6,8	専門
表現・示し方等	2	普通会計ではなく一般会計でまとめているが、その場合、赤字になりやすい国民健康保険事業などの社会保障関係経費が、一般会計の中にほとんど含まれない。「財政運営の基本方針」の冒頭で社会保障関係経費について触れており、そのあたりのミスリーディングが生じる可能性を踏まえたうえで、言及する必要がある。	収支見通し等について一般会計でまとめているが、特別会計への繰出金について、特別会計の負担の伸びをある程度想定した推計を行っている。	-	専門
表現・示し方等	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「計画本文」では、これまで吹田市が臨時財政対策債を発行していたかどうか、また、「発行しない」ということがどのような意味を持つのかわからない。</li> <li>「検討資料」にも説明がない。</li> <li>「検討資料」P.1 図表Ⅱ-1の市債のうち、規模は小さいと思うが、臨時財政対策債の額を示してはどうか。</li> </ul>	「検討資料」のP.1図表Ⅱ-1において、市債のうち、発行した臨時財政対策債の額を（ ）内に追加し、本文に説明を追加。	【資料38】 ・図表Ⅱ-1 ・P.6本文	専門

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	反映箇所	部会
目標	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公債費比率の目標を10%以下としているが、現状の8%から悪化することになる。ある程度シビアに見てもいいのでは。</li> <li>・市債残高は67.3%とよい水準にもかかわらず、それを緩めるような目標設定となっている。100%とするのは緩め過ぎではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公債費比率及び市債残高の目標値については、市債を発行するうえでの上限として設定している。財政運営の基本方針では、財政の健全性を維持していくことに加えて、本市の魅力を増すため、「将来への必要な投資」を行うことも掲げている。また、今後、公共施設の更新等が集中する中で、市債発行額が増加する可能性が高い。そのような中、市債発行を今後どこまで行ってよいかの目安として目標値を設定している。</li> <li>・目標値については、本市の過去の実績を勘案するとともに、同規模団体の水準と比較して検討している。現状の公債費比率及び市債残高の比率は、府内または全国の同規模団体と比較するとかなり低い水準にあり、それぞれ目標値（公債費比率10%、市債残高の比率100%）になった場合でも、なお低い水準である。</li> <li>・上記の考え方がわかりやすくなるように、「計画本文」及び「検討資料」において、目標値の考え方に関する表現を全体的に修正。</li> </ul>	<p>【資料37】 P.6本文 【資料38】 P.6～7本文</p>	専門
目標	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標として経常収支比率や財政調整基金の残高、市債管理のことが書かれているのに、P.7の図表Ⅳ-3にはこれらの記載がない。</li> <li>・市債残高の目標値を「標準財政規模以下」とするなら、標準財政規模に対する市債残高の割合を示す必要がある。</li> </ul>	<p>目標値については、財政の健全性を維持していくための財政運営上の目安となる指標を設定。一方、収支見通しは、財政運営の参考として、性質ごとに一定の条件を設定し、現時点での今後の見通しを大まかにシミュレーションしたものを掲載しているものであり、シミュレーション上での目標値の推移までは掲載しない。</p>	-	専門

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方(案)	反映箇所	部会
目標	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標における、財政調整基金の残高に関する記述について、「急激な経済情勢の変化、大規模災害の発生などに備える観点から」とあるが、そのような観点から、100億円という目標値の妥当性について試算があるのか。</li> <li>・「概ね100億円を確保し、その用途としては、急激な経済情勢の変化や大規模災害への対応などが考えられる」というのが正確な表現。「〇〇の観点から、財政調整基金を基金として確保していきたい。その規模は、他の同規模団体にならって、概ね100億程度を目標とする」と分けて書く方がわかりやすいのでは。</li> </ul>	<p>目標値については、本市の過去の実績を勘案するとともに、同規模団体の水準と比較して検討。また、「検討資料」に同規模団体の水準を示す図表を追加するとともに、目標値の根拠を記載する。</p>	<p>【資料37】 P.6本文 【資料38】 P.6～7本文</p>	専門
目標	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経常収支比率等について、市民にとってわかりやすくなるよう説明をかみ砕くことも考えられるが、かみ砕き過ぎると誤解を招く恐れがある。</li> <li>・「計画本文」では、「検討資料」の説明が多く省略されている。「計画本文」の内容を「検討資料」の説明を踏まえて補足することで、市民にも読みやすくなるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御意見を踏まえ、目標の考え方がよりわかりやすくなるようできる限り平易な表現で示す等、文章全体を修正。</li> <li>・数値目標の根拠については「検討資料」において追加。</li> </ul>	<p>【資料37】 P.6本文 【資料38】 P.6～7本文</p>	専門
目標	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値の根拠がわからないので、説明していただいた方がよい。</li> <li>・目標はわかりやすく表現し、「経常収支比率が概ね95%以下なら、妥当な水準と思われる」という判断までを「計画本文」に記載し、95%以下という数字の根拠は「検討資料」に記載するなど、工夫を。</li> </ul>		<p>【資料38】 P.6～7本文</p>	専門

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	反映箇所	部会
目標	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経常収支比率は、歳入・歳出の収支の中での自由度を表す指標。財政調整基金の残高は、備えに関する指標。市債管理は、借金体質の状況を示すための指標。この3つの目標で、市全体の財政運営のポイントを概ねカバーできている、ということが言えるのではないかと思うが、それが端的に記載されていれば理解しやすい。</li> <li>・ 目標については専門用語ではなく、「借金体質にならない」などの日常語でかみ砕いた表現をしてはどうか。また、「弾力性のある財政構造」よりも、「臨機応変に対応できる体質」の方がわかりやすい。目標はかみ砕いて表現したうえで、具体的な指標としては経常収支比率等の専門用語をおく、などの工夫が考えられる。</li> <li>・ 「計画本文」では目標をかみ砕いた表現で示し、数値目標については、「検討資料」に記載することとし、「計画本文」では必ずしも記載する必要はないのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 御意見を踏まえ、目標の考え方がよりわかりやすくなるようできる限り平易な表現で示す等、文章全体を修正。</li> <li>・ 数値目標は財政の健全性を維持していくための財政運営上の目標や考え方を示すため、「検討資料」だけでなく「計画本文」にも記載する。</li> </ul>	<p>【資料37】 P.6本文</p> <p>【資料38】 P.6～7本文</p>	専門